

西東京市立向台小学校（1年目）

【校長】 湯浅 泰美
【生徒数】 879 名
【学級数】 27 学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 体育の学習
 - ・課題解決のために考えたことや友達のよい動きなどを交流する時間を増やせるとよい。
 - ・体育館など wi-fi が使用できない場所では、タブレット端末を使えない。
 - ・各単元にどのコーディネーショントレーニングを取り入れればよいか検討できるとよい。
- 児童アンケート「体育の学習以外に、運動に進んで取り組んだり、外遊びをしたりしている」の割合を更に上げる。
 - ・児童が休み時間に体を動かそうと思える環境づくり。
 - ・より効果的、且つ効率的な校庭・体育館・屋上の割り当てをする。

【成果】

目標 体育の学習以外に、運動に進んで取り組んだり、外遊びをしたりしている児童の割合 75%を目指す。

- 体力アップカードの作成
 - ・1年生～6年生の体力テストなどの自己の記録を残し、自身の運動能力を上げる手だてにした。
 - ・今年度からタブレット端末にデータを残すことにより、いつでも見返せるようになり、効率化された。
- 外部人材の活用
 - ・マット運動、ダブルダッチの専門の方に入っていたことで、より運動への意欲及び運動量の確保ができた。
 - ・参考動画等を撮影し、児童がいつでも視聴できる環境にすることで、児童が一人でも課題に取り組むことができるようになった。
- 児童アンケート「体育の学習以外に、運動に進んで取り組んだり、外遊びをしたりしている」の割合が 63.9%から 64.7%に向上した。
- 休み時間の校庭遊びに加え、屋上や体育館を開放しダブルダッチの講師を活用して練習できるようにすることで、体を動かせる機会を増やした結果、一人当たりの一週間の運動回数が 4.2 回から 4.3 回に向上した。

【実態・課題】

- 児童アンケート「体育の学習以外に、運動に進んで取り組んだり、外遊びをしたりしている」の割合が 63.9%であり高いとは言えない。運動・スポーツの実施状況の向上と定着を課題とする。
 - ⇒児童の運動・スポーツへの興味・関心が低い。
 - ⇒運動習慣が定着していない。
 - 体力テストの結果が 6 年生以外、男女共に全国・都平均以下の種目が 4 種目以上ある。
 - ⇒運動の機会が少ない。
 - 児童数が多いため、校庭遊びをできる日が限られているため、運動の機会が少ない。
- *一人当たりの、一週間に運動した回数…4.2 回

【取組】

- ダブルダッチの講師を招へい（外部講師の活用）
 - ・児童が仲間と励まし合いながらチャレンジし「できた」という達成感を得る。
- 児童が運動できる時間と環境づくり
 - ・休み時間の屋上・体育館活用
 - ・意図的、計画的に外部講師を入れた成果を休み時間に実践させる。（ダブルダッチ旬間）
- タブレット端末の活用
 - ・自己の課題発見や振り返りの場面
 - ・運動旬間カードの一元化
 - ・手本動画を作成し、児童がいつでも運動の仕方やポイントを学ぶことができる教材開発

【取組（詳細）】

○体育科の授業においてタブレット端末を活用

タブレット端末を活用することで、自らの課題を見だし、解決のためのよりよい方法を考えて運動に取り組むことができる児童の育成が期待される。また、タブレット端末を使用した学習の振り返りを蓄積し、児童一人一人が自己の学びの成果を実感できるようにする。



運動を楽しみながら、自ら体力を高めていく習慣を身に付けた。課題を明確にする手だてを講じ、それを解決する場をスモールステップで設定し、課題を解決していく経験を積み重ねさせることで、児童はより意欲的に運動に取り組むことができると考えた。

- (1) 短縄跳び記録カード、鉄棒記録カード、マラソン旬間記録カード等をタブレット端末に一元化し、体力アップカードとして 6 年間の記録を持ち上がりで見られるようにした。また、鉄棒を使った・遊びやダブルダッチの跳び方手本動画を作成し、児童がいつでも、どこでも視聴し、チャレンジできる環境を整えた。
- (2) PTA と連携し、ヨガ教室、カポエイラ教室、ミニ運動会等親子で楽しく運動に取り組める機会を創出した。
- (3) 生活習慣の大切さをテーマに、理想の生活習慣を児童が自ら考え、改善し、実践しようとする力の育成を目指した。
- (4) ダブルダッチの講師を招へいし、児童が仲間と励まし合いながらチャレンジし「できた」という達成感を得ることができるようにした。

縄跳びカード												現在
ビギナーズ				ミドル				エキスパート				
10回	☐	☐	☐	10回	☐	☐	☐	10回	☐	☐	☐	☐
9回	☐	☐	☐	9回	☐	☐	☐	9回	☐	☐	☐	☐
8回	☐	☐	☐	8回	☐	☐	☐	8回	☐	☐	☐	☐
7回	☐	☐	☐	7回	☐	☐	☐	7回	☐	☐	☐	☐
6回	☐	☐	☐	6回	☐	☐	☐	6回	☐	☐	☐	☐
5回	☐	☐	☐	5回	☐	☐	☐	5回	☐	☐	☐	☐
4回	☐	☐	☐	4回	☐	☐	☐	4回	☐	☐	☐	☐
3回	☐	☐	☐	3回	☐	☐	☐	3回	☐	☐	☐	☐
2回	☐	☐	☐	2回	☐	☐	☐	2回	☐	☐	☐	☐
1回	☐	☐	☐	1回	☐	☐	☐	1回	☐	☐	☐	☐
計 数 回	片足 跳び	両足 跳び	後ろ 片足 跳び	計 数 回	あやこ び	交差 び	交差 サイクル び	計 数 回	逆 跳び	そく しん び	は や な び	

児童が運動できる時間と環境づくり

本校は、体育の学習以外に、運動に進んで取り組んだり、外遊びをしたりしている児童の割合が 66.4%であり高いとは言えない。運動・スポーツの実施状況の向上を目指すために以下二つの取組を行った。

○大規模校で週に 2、3 回程度しか校庭遊びができないため、休み時間に屋上と体育館を学年ごとに割り当て、体を動かす機会を確保した。

⇒今年度は、ダブルダッチと短縄跳びを行った。

○ダブルダッチの講師を招へい

児童が意欲的に楽しく遊べるように、休み時間にもダブルダッチの講師による跳び方指導を行った。その結果、校庭や体育館、屋上で体を動かす児童が増えた。